

イモグサレセンチュウのニンニク地上部への寄生状況

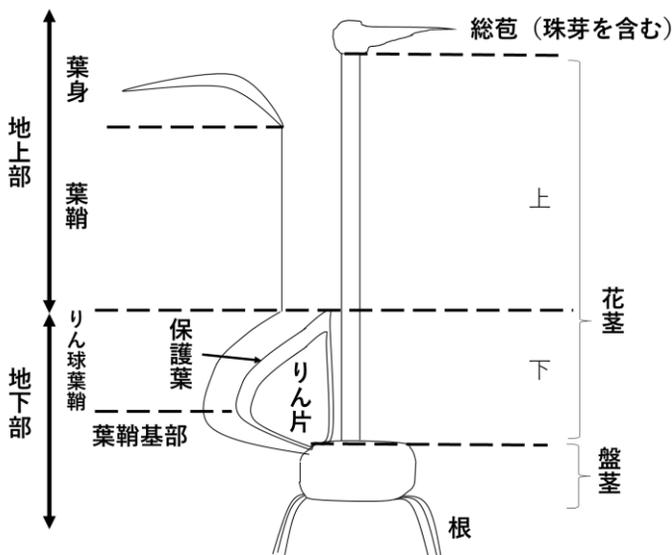
イモグサレセンチュウ（以下、本線虫）は、収穫後の乾燥・保管中に腐敗球を多発させるニンニクの重要害虫です。本線虫がニンニクの地下部に侵入・増殖することは知られていますが、ニンニクの地上部への寄生は明らかになっていませんでした。近年、珠芽を利用したニンニク生産技術が開発されていることから本線虫のニンニク地上部への寄生状況について調査しました。

調査内容と結果

野菜研究所内の本線虫高密度圃場から完全抽台株を選んでニンニクの植物体をサンプリングしました。植物体は11個の部位に分け（右上図）、それぞれの部位の線虫数を調査しました。

その結果、りん球肥大期から収穫時期にかけて地下部から徐々に地上部へと侵入・増殖し、総苞（珠芽を含む）を含む植物体全体に寄生することが明らかになりました（右下表）。

図 ニんにく植物の各部位と位置



防除対策

本線虫の防除は、「発生圃場では、ニンニクを作付けしない」ことが前提です。

しかし、やむを得ずニンニクを作付けする場合には、今までの本線虫に対する総合防除に加え次のことに注意してください。

- ◆ 本線虫が発生した圃場産ニンニクから得られた珠芽は種として利用しない。
- ◆ 葉や茎の地上部を含む残渣は、圃場外に搬出し適切に処分する。

表 ニんにく植物体内の部位別線虫寄生数

調査部位		調査日（頭/部位）		
		5月31日	6月14日	6月24日
地上部	総苞（珠芽を含む）	0.0	0.3	4
	葉身	0.0	129.7	101
	葉鞘	2.0	373.5	2127
花茎	上部	0.0	0.3	1
	下部	0.0	0.3	21
地下部	りん球葉鞘	12.3	205.1	3461
	葉鞘基部	46.0	1007.9	760
	保護葉	0.7	0.0	394
	りん片	0.3	2.0	45
	盤茎	75.3	445.8	519
	根	6096.7	859.1	363

注：供試ニンニクは、無消毒・本線虫高密度圃場（2019年6月19日時点での被害りん球率 80%）から採取した。また、この圃場に植え付けた種ニンニクは、本線虫の寄生していない健全な種を使用した。

詳しくは令和2年度指導参考資料「イモグサレセンチュウ被害にニンニクにおける地上部への寄生状況」
<https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/nosui/files/R1y2.pdf> を参考にして下さい。